

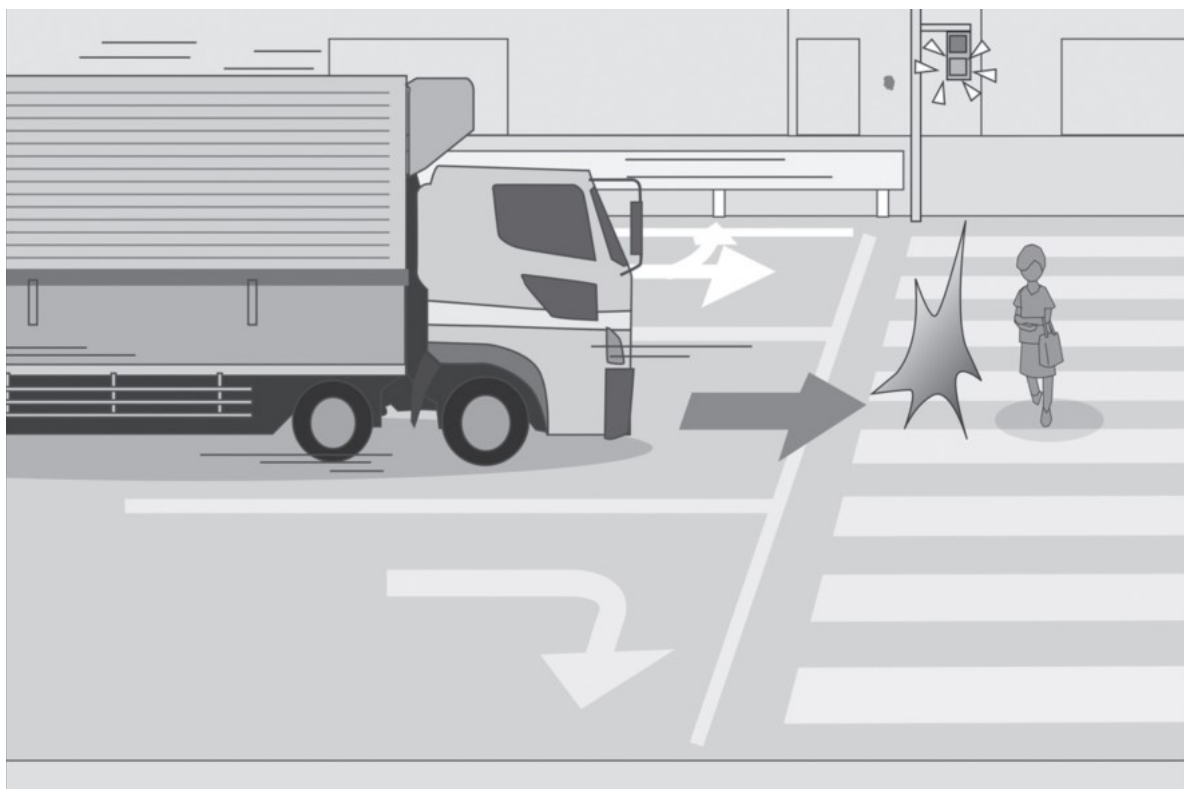
事故に
学び
安全運転に
生かす

事例研究 82

脇見運転で横断中の歩行者をひく

事故の概要

- 発生日時 10月26日（日） 午前4時00分頃 天候 くもり
- 発生状況 運転者が帰社のため、早朝の国道を走行中、脇見運転により赤信号に気づかず、横断歩道を横断していた相手歩行者をひいて死亡させたもの。
- 事故当事者 男性40歳 相手側 女性59歳
- 事故原因 運転者は会社の近くの国道を走行していました。高速道路から一般道路に降り、あとわずかで到着という安堵感がありました。携帯電話が鳴り、メールを確認したところ、衝撃を感じたため、車を急停車させて後方を見に行くと、歩行者がトラックの下敷きになっていました。携帯電話に気をとられて前をよく見ていなかったために赤色だった信号機を見落としてしまい、青色信号に従い横断歩道を横断していた歩行者をひいてしまったのです。



提供：中部交通共済協同組合

被害／損害

59歳女子死亡

総損害額 5,550万円

■被害概要

- ・被害者の職業 パート職員
- ・被害状況 頭部粉碎骨折により死亡

■損害額内容

・治療費	10万円
・逸失利益	2,500万円
・慰謝料	2,500万円
・葬儀費用その他	540万円
計	5,550万円

■運転者について

禁固3年執行猶予5年の刑事処分を受けました。
運転免許取り消しの行政処分を受けました。

被害者について

被害者は夫と子供3人と幸せな生活を送っていました。事故前日は娘さんとふたりで娘さんが大好きなアーティストのコンサートに出掛け、大変、楽しげであったとのこと。

被害者はこの日、いつものように新聞配達の仕事を終え、同じく早朝に仕事を終える次男との待ち合わせ場所に向かっていたが、大きな国道交差点を横断中に事故に遭い、帰らぬ人となりました。ノーブレーキで赤色信号の交差点を通過した大型トラックにひかれ、頭部は後輪により、その形もわからぬほどに踏みつぶされてしまいました。警察からの連絡に駆けつけた長男は、その無残な遺体と対面し、ショックで半狂乱となり、その後も精神的な変調をきたしたままの状態が続いています。待ち合わせ場所に現れぬ母に何度も電話していた次男は「待ち合わせ場所が悪かった」とか「迎えに行けばこんなことにはならなかった」と自責の念に囚われています。

この事故のために明るく楽しい生活を送っていたひとつの家庭が崩壊し、残された家族全員がそれぞれの苦悩を抱えて、思い悩む日々を続けているのです。

この事故から学ぶ事

運転者は、長距離運転を終えて帰社する直前で、安堵感に浸ってました。早朝の国道ということもあり、時速60キロほどで、直線道路を走り続けていました。そんな中、携帯電話のメールの着信音が鳴り、反射的に手に取って携帯電話の画面を見てしまいました。メールを確認していると何かにぶつかり、その直後にゴトンと何かに乗り上げた衝撃を感じたため、トラックを急停車させて後方を見に行ったところ、歩行者が下敷きになっていました。

この事故の原因は、脇見運転のために前方の安全確認がおろそかになってしまったことにあります。人間の注意力の維持には限界というものがあります。運転以外のことへ注意が奪われてしまうと、進行方向への安全確認は不可能となってしまいます。

目的地に近づくと、あとわずかまで到着するという安堵感から気持ちがゆるみがちです。走行中は、最後にエンジンを切り、降車するまで気を抜くことなく、前方の安全確認に徹した運転をしましょう。